

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア（地域振興）				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋

講演題目
文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことが本研究の目的である。「文化資源」という概念は、木下直之氏の発案によるものだが、文化芸術を活かした地域の振興、あるいは地域教育とツーリズムという形で、様々な取り組みがされている。 その実践として、2018年度以来、焼津小泉八雲記念館（焼津市）、藤枝市文学館（藤枝市）、中勘助文学記念館（静岡市）の3館と連携し、2019年度には芹沢銈介美術館（静岡市）を加えて、駿河の文化施設をめぐる新しい〈文学ツーリズム〉の可能性をさぐる「するが文化の散歩道」ツアー企画を提案・開催。コロナ禍を経て、2020年度から4館を巡るスタンプラリーを継続して開催している。 【成果】主な活動並びに成果は以下の3点。 〔伊豆〕5/18 新生第10回湯ヶ島檸檬忌（梶井基次郎顕彰）の開催に協力。第一部の梶井文学散歩の案内役を学生とともに務め、第二部の梶井座談会の会場設営・片付けなどもNPO伊豆文士村とともにゼミで行った。また、第14回太宰治生誕祭（沼津桜桃忌）では昨年に続き朗読イベントの開催。6/15に太宰治が「斜陽」を執筆した安田屋旅館（三津浜）で桜桃忌にあわせた朗読イベントと箏曲演奏を行った。 〔駿河〕「するが文化の散歩道 スタンプラリー」台紙パンフの作成とノベルティグッズの制作（7-9月）、スタンプラリー vol.8の開催（10/7～12/7）。各館に作成したオリジナル猫キャラクターのデザインを新3年生により一新し、バッグのデザインに活かした。昨年に続き猫キャラクターは非常に好評で、昨年はNHK朝の連続小説『ばけぼけ』による八雲効果もあって、各館の来館者数も伸びた。ゼミ生の発案によるAR機能を使った猫キャラと写真が撮れる「＃にゃかかんすけ」のSNS発信にも多くの参加者があった。取組の様子は「静岡新聞」10/23に写真入り記事で大きく紹介されている。 〔作家・実石沙枝子氏の特別講義〕静岡を舞台とした作品を書かれている静岡市清水出身の作家・実石沙枝子氏を招いて7/25に特別講義「〈書く〉視点で楽しむ物語」を開催（参加約90名）。8/5「静岡新聞」でも紹介された。また、年明けに行っている新春短歌会 vol.10にも特別ゲストとして招き、兼題〈恋〉をテーマとした歌を投稿、撰にも参加していただき、静岡への思いを学生たちに語ってもらった。 【今後の展望】「するが文化の散歩道」企画は冊子やスタンプを刷新し、各館の猫キャラクターも好評を得ている。県内で文学館同士が連携して行う企画はほかになく、〈文学ツーリズム〉の取り組みはアイデアを出し合う新しい場の創出に繋がっている。その延長として2024年度に開催した「文学館連携シンポジウム」での提案のうち、「AR機能を使ったSNS発信」を実現することができた。バーチャル「伊豆文学館」構想も湯ヶ島エリアでNPO伊豆文士村と打合せを行っている。さらに連携の輪をひろげ、地域振興・教育という視点からも成果あるものとしていきたい。